

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

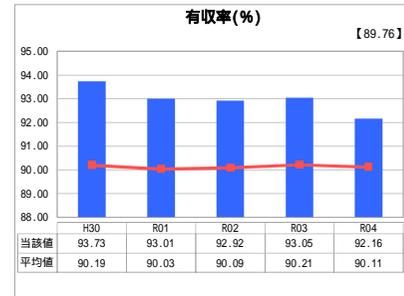
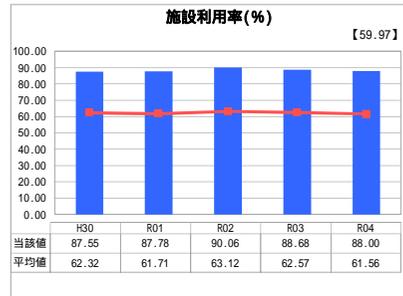
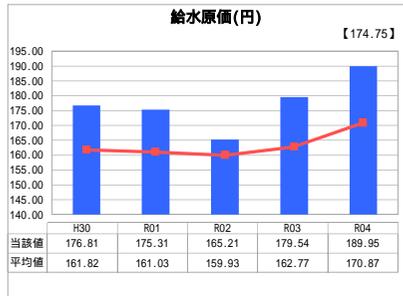
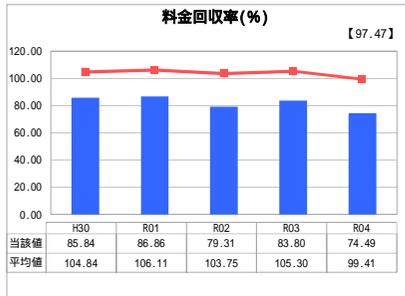
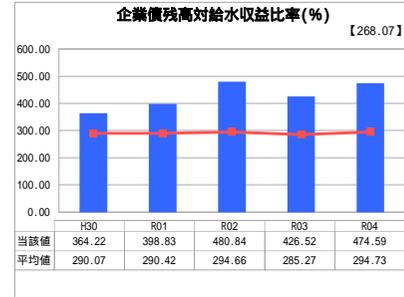
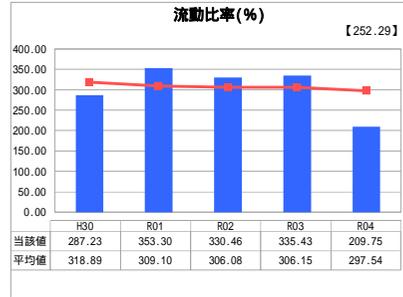
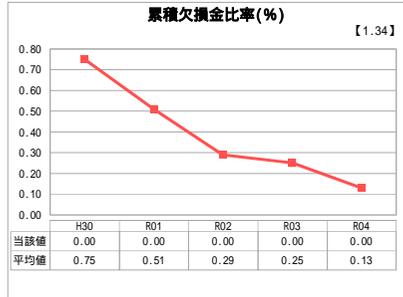
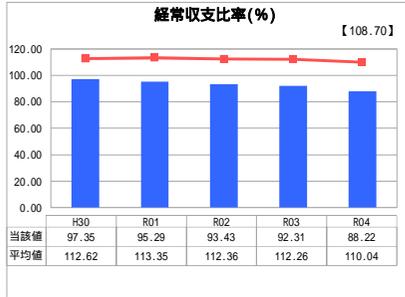
兵庫県 宝塚市

業務名	業種名	事業名	類似団体系分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	61.47	99.99	2,420	

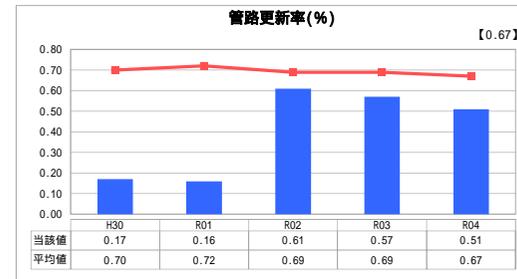
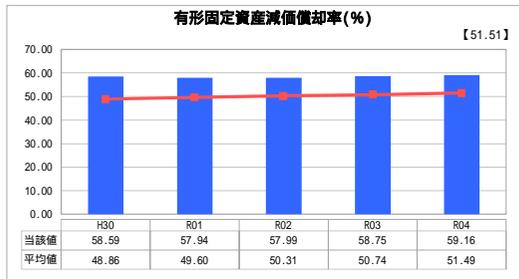
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
230,788	101.80	2,267.07
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
230,437	42.97	5,362.74

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
● 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

人口減少等により給水収益や分担金収入の減少が続く一方、電力料金の高騰やダムの漏水により動力費や受水費などの給水原価が増加したことから、経常収支比率は前年度よりさらに4.09ポイント悪化し、88.22%と100%を大きく下回りました。料金回収率は前年度よりさらに9.31ポイント悪化して74.49%となり、経常収支比率と共に100%を大きく下回っています。また、流動比率が大きく減少しているのは、経営成績の悪化に加え、資金繰りの厳しい下水道事業会計への長期貸付により手許資金残高(流動資産)が減少したことが主な要因です。また、5年連続で経常赤字が続く厳しい経営状況の中、比較的借入利率が低率であることなどから、必要となる更新投資の財源を主に企業債で賄っており、企業債残高対給水収益比率は前年度に比べ48.07ポイント上昇し、類似団体平均を大きく上回っています。施設利用率は安定して高い状況が続いており、効率的な運用ができていますが、管路については、比較的口径の大きな箇所での漏水があったため、有収率は前年度より0.89ポイント悪化しましたが、類似団体平均より高い水準であり、今後も高水準の維持に努めます。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は類似団体より少し高い水準で横ばいであり、管路経年化率は前年度に比べ0.45ポイント悪化して、類似団体より3割ほど高い水準で増加傾向です。高度経済成長期に整備した施設が法定耐用年数を迎えていること、実際の耐用年数を見極めたうえで更新を行っていることが要因となっています。令和2年度以降管路更新に係る事業体制の強化を図ってきたことにより、管路更新率は類似団体平均に近づいてきましたが、前年度に比べ0.06ポイント減と徐々に更新率が下がっています。今後はAIなどの技術も活用し、より効率的な管路更新に取り組めます。

### 全体総括

燃料費の高騰やダムの漏水による受水費の増加など、令和4年度も全体的な指標が悪化傾向であり、かなり厳しい経営状況です。現状の赤字や借金の増加が続けば、健全な水道事業の継続が困難となることから、令和3年度に策定した経営戦略中間見直しに掲げている経営健全化の取組みを着実に実行するとともに、昭和55年以降改定を行っていない水道料金について見直すことで、生活の維持に欠かせない水道の安定供給に努めます。